

# グループホーム 可也 桜の里

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

## グループホーム 可也 桜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域在宅者の支援のための会議に毎回参加している。またベルマーク集めやペットボトルキャップ集めなどを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果については、運営推進会議、チーフ会議、家族会、全体会議などで公表し、改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合われた議題は、チーフ会議、全体会議、家族会などで取り上げ話し合っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	居宅介護支援事業所の連絡会議など、この地域は連絡会が充実しており頻繁に話し合いが行われている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	これらの制度の講習会にはスタッフを出来るだけ参加させるようになっているが、スタッフ全員が制度を把握しているわけではない。また必要な家族への提案なども行っている。		スタッフ全員の制度の把握
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議等や朝礼時等で注意を促しているが、入居者への対応が入居者にとってストレスにならないよう早期発見に気を配っている。		

## グループホーム 可也 桜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご家族との関係作りの第一歩である契約時は十分に時間を取り大切にしている。また解約後もいつでも相談してもらえるような対応を心がけている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>不満や苦情になる前の要望の段階で気軽に相談してもらえるよう、日頃より心がけている。必要であればチーフ、ケアマネと対応についてミーティングしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ケアプラン変更時はもちろん、通常よりご家族とは頻繁に連絡を取り、状況の報告や相談を行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や家族会を行い運営の透明性を図っている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者との報告。連絡、相談は頻回に行っており、スタッフが話し合っただけのことに対し助言する体制を取っている。また日頃よりスタッフとの関係作りに努めている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>チーフの調整によりスタッフ間で柔軟な対応を行っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>本人のステップアップやスキルアップを考えると離職もやむを得ない場合もあるが、チームワークの大切な仕事であるため、日頃より気を配っており、ご家族への対応も時間をかけ引き継ぎを行っている。</p>		

## グループホーム 可也 桜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>家族のような生活を理念でも唱っており、幅広い年齢層の職員が必要と考えている。また、介護だけでなく様々な職歴や経験は必要なことだと考えている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>尊厳は理念でも毎朝唱和しており、その意味についても常々スタッフには再確認している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフの勤務体制の調節や確保などとても難しいが、出来る限り各講習会、勉強会には各スタッフの参加を促している。</p>		<p>法人の協力を得て桜の里内での研修を行う予定。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>この地域は連絡協議会などがとても充実しており、様々な会議により交流も多く、お互いに施設交流も行っている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室の充実、休憩時間の改善や喫煙スペースの改善など行っているが、今後も話し合っていきたい。</p>		

## グループホーム 可也 桜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフが頑張っていること、行ったことは、出来るだけ把握し、声をかけるようにしている。また賞与に反映できるように法人に報告している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に、必ず本人のもとへ、チーフ・ケアマネジャーで出向き、面談を行い、十分なコミュニケーションの中で、本人の困っている事や不安な点、希望等を聴いている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に、必ず御家族とチーフ・ケアマネジャーで面談を行い、御家族の困っている事や不安な点、希望等を聴いている。又、その後も入居に至るまで、電話連絡や見学等で情報収集に努めている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談等で知り得た情報をもとに、職員で検討を行い、適切なサービスを提供できる様に努めている。又、当グループホームでは満たせないサービスについては、他の関係機関等に相談をする等、最善に努めている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気、徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、必ず本人・御家族同伴で当グループホームに見学に来て頂く様にしている。必要であれば、事前の体験入居も受け入れている。入居後一ヶ月間は、慣れ親しんで頂ける様、サービスは開始せずに、御家族と密に情報を共有し、支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中で、入居者一人ひとりのできる事を見つけ、家事や掃除等、できる事は職員と一緒にやって頂いている。又、日常のコミュニケーションやレクリエーションの中でも、入居者の方に昔の習慣や生活、物事等を教えて頂ける様、場面づくりを行っている。		

グループホーム 可也 桜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて、御家族と情報を共有し、本人の状態や希望に合わせて、面会や外出・外泊等の依頼を御家族に行っている。又、御家族参加型行事等も行い、本人と御家族が共に楽しめる機会を設けている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・御家族、双方に負担にならない範囲で、御家族に外出・外泊、面会や電話等の促しを行っている。希望があれば、御家族の当グループホームへの宿泊も受け入れている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者等については、キーパーソンの了解があれば、随時受け入れている。又、ドライブ時には、住み慣れた場所を回る等の支援に努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の食事やおやつ、レクリエーション時には、必ずリビングに集まって頂ける様、促している。その中で、入居者一人ひとりにできる事を行って頂き、互いに支え合える場面づくりを行っている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居時には、必ず入居者や御家族に対して、退居後でも相談等あれば、いつでも気軽に御連絡頂く様、声かけを行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から引き出すようにしている。又、御家族の面会時には、希望も伺うように努めている。		関心が薄く、当グループホームに一任される御家族には、今後も働きかけを続けていきたい。

## グループホーム 可也 桜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の見学及び説明や出向いての事前情報収集に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	担当制をとっており、現状把握に努めている。又、情報は職員全員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議で話し合い、各担当がケアプランを作成し、ケアマネジャーが統括している。会議に参加できない御家族には、面会時や電話で希望等伺っている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一ヶ月毎にモニタリングを行い、変化が生じれば、プランの変更を行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、様々な情報が記入できるようになっている。又、サービス担当者会議や重要な話し合いの内容等も、別欄を設けて見やすいようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体病院がすぐ近くにあり、定期受診等は便利だが、日・祭日や夜間の対応ができない。		日・祭日、夜間の急変時の受診がスムーズにできる体制にもっていけるよう働きかけていきたい。

## グループホーム 可也 桜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアやシルバー人材センターを活用している。又、花の手入れや入居者の方との散歩時には、地域の方々とのコミュニケーションを図っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設や介護サービスの情報を収集し、必要時に提供するようにしている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に会議に参加したり、困難例が発生した時には相談している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くに母体病院がある。又、定期的な歯科往診もある。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体病院に専門医がいる。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が各ユニットに一人おり、日々の健康チェックや排便コントロール等行っている。		持っている知識や経験を、今後も介護職員に伝え、協力して入居者の健康維持に努めていきたい。

## グループホーム 可也 桜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>退院の連絡があれば出向き、情報収集に努め、スムーズに当グループホームに戻れるよう配慮している。又、直接当グループホームに戻る事が難しい事例に対しては、母体病院に一時入院して頂く事も可能である。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>管理者、全職員で話し合いを続けている。又、御家族を交えての話し合いも行っているが、まだ十分とはいえない。</p>		<p>今後も、当グループホームサイドだけでなく、御家族との話し合いもすすめていきたい。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>入居者の方々も高齢化しておられ、避けては通れない問題であり、重度化(急変含む)については、その都度対応しているのが現状である。終末期の方を迎えた事はないが、話し合いはすすめている。</p>		<p>医療連携も含め、職員が安心して看取りができるよう、終末期についてのマニュアル作りをすすめていきたい。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>転所先が決まっている方については、転所先に情報を提供している。又、未定の方については、施設の紹介や空き状況の確認を行っている。</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者一人ひとりを尊重し、丁寧な言葉かけを行っている。又、居室には無断で入室せず、必ず声かけや本人同伴の方法をとっている。入浴やトイレも一人ずつ行い、可能な限り、同姓による介入を心掛けている。</p>		

グループホーム 可也 桜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その都度、入居者一人ひとりに御自分の希望を気軽に言って頂けるよう声かけを行っている。又、全てにおいて、入居者の決定や了解を得た上で支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースや体調に合わせ、入浴や散歩・買物等、希望があれば、入居者の方を優先し実行している。又、決して無理強いせず、各入居者の意思に沿った支援に努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日の洋服を入居者と一緒に選び、好みの服装にして頂いている。又、男性の方は毎日髭を剃り、女性の方は化粧やマニキュアをして頂く等、お洒落に配慮している。美容室等も行きつけの店があれば、お連れしている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの好みや能力に合わせ、献立書きや台拭き、野菜の皮むき等の下準備、料理の盛り付け、配膳等を一緒に行っている。又、おにぎり作りやおやつ作りも一緒に行っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	主治医や御家族と連携し、入居者一人ひとりに合わせ、好みの物を提供している。又、買物に同行して頂き、気に入った物や食べたい物を購入している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレの場所を何度も声かけにて示したり、張り紙等用いて、自力での排泄に結びつくよう支援している。又、入居後一定期間は排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、トイレ誘導を促す等、トイレでの排泄に力を注いでいる。		

## グループホーム 可也 桜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居時に、本人により入浴の曜日・回数を決めて頂いている。その上で、入浴日に本人の希望の時間を毎回伺うようにしている。入浴日の変更の希望等あれば、随時、意向に沿うよう対応している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの状態や希望に合わせて、適切に休息をとって頂けるよう支援している。眠れない等の訴えあれば、職員と一緒にお茶をしながらゆっくりと会話する等、安心して頂けるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりのできる事を把握し、その上で各入居者の求めている家事や掃除、野菜作り等の役割のある支援を行っている。又、気晴らしを兼ねて外出し、食事やおやつを食べに行く等支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の所持金は、当グループホームにて管理しており、買物等の希望があれば、その都度、入居者の方と買物に行き、所持金を使う事ができるよう支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や各入居者の体調等に合わせ、近隣への散歩やドライブに行っている。又、季節によって、外出の行事等も設けている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事やドライブ等で、個別あるいは他入居者の方と一緒に外出できるよう支援している。又、御家族にも入居者の方と一緒に外出・外泊して頂けるよう促している。		

グループホーム 可也 桜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族と本人の連絡を、電話や手紙、FAXにていつでも行って頂けるよう支援している。電話については、本人の状態に合わせ、御家族と相談した上で、最適な時間を決定する等の工夫も行っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	キーパーソンの了解を得た上であれば、いつでも知人、友人等気軽に面会に来て頂けるよう支援している。又、面会時には、居室だけでなく、リビング・談話室等も自由に使用して頂けるよう開放している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が常に、見守りや近接介助等を十分に行い、身体拘束や精神的拘束をしないケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・窓等全て鍵をかけずに開放しており、玄関ドアにセンサーを設置したり、職員間の連携による各入居者の所在把握により、離所防止の対応を行っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は各入居者のプライバシーを十分に考慮した上で、職員間の連携を駆使し、本人の領域を侵さないよう、所在把握や様子観察を行い、安全の維持に努めている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	鋭利な刃物等の危険物については、鍵のついたロッカーにて管理し、毎日、チェック表を用いて数量の点検を行っている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月、職員による全体会議の中で、リスクマネジメントについて検討していると共に、毎日の十分な職員間の申し送りにて、事故防止に努めている。		

グループホーム 可也 桜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時のマニュアルを作成し、職員は対応方法を把握している。救急救命の研修にも参加している。又、緊急時の職員用、御家族用の緊急連絡網も作成し、電話口に設置している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回、昼夜想定避難訓練を実施している。又、志摩町社会福祉協議会が主催する災害支援ネットワークに加盟しており、各機関で災害時に協力し合えるよう取り組んでいる。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時には、必ず御家族等と起こり得るリスクについて話し合い、その後のケアに活かすようにしている。又、入居後も状態変化に応じて、随時、御家族とリスクについての対応を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は常時、状態観察を行い、介護記録等に細かく記録し、職員全員が情報を共有できるようにしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬等についてファイルを設置し、職員が目的・副作用等把握できるようにしている。又、服薬時は、必ず飲み込みまで確認し、処方薬変更等の際には、状態観察を行い、細かく介護記録に記録して確認に努めている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状況をチェック表にて把握していると共に、日頃より、水分摂取や食物繊維摂取の促し、並びに運動を実施し、便秘予防に努めている。		

グループホーム 可也 桜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけや介助にて口腔ケアを実施している。又、義歯は毎晩ポリドント洗浄を行い、清潔保持に努めている。協力歯科に定期的な歯科検診及び無料検診も依頼している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量を1000～1500ml、栄養摂取量を1400～1500kcalにて毎日提供し、入居者一人ひとりチェック表で管理している。又、母体病院の栄養士とも連携し、栄養指導を行っている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎食前や外出より戻った際には、入居者・職員共にくがい、手洗いを徹底して行っている。又、毎日手すりやトイレのハイター消毒を実施しており、フロアも週二回ハイター消毒を行っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、まな板やフキン、手拭タオル等のハイター消毒を行っている。食材は、毎日業者から新鮮な物を届けてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに花を植え、自動販売機を設置し、どなたでも親しみやすく、気軽に出入りして頂けるよう配慮している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は、廊下・居室のカーテンを全て開け、十分な採光が取り入れられるようにしていると共に、窓から見える山や畑等の風景を通して、季節を感じて頂けるようにしている。又、庭に季節の花や野菜を植え、ベンチを設置し、落ち着ける空間作りを行っている。		

グループホーム 可也 桜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや談話室にテーブルや椅子、ソファを設置し、各々自由に使用して頂けるよう支援している。又、談話室には文庫本やマッサージチェアも設置している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた物や好みの物等を自由に持ち込んで頂くようにしている。又、家具やベッド等の配置についても、入居者の方と一緒に話し合っ決めて等、それぞれが過ごしやすい空間作りに努めている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中は、窓を開放しており、換気扇も24時間常時稼働し、換気の徹底に努めている。又、職員が温度計をこまめに確認し、エアコンにて温度管理を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下等には障害物は置かず、足元灯等も設置し、安全な空間を作っている。又、各箇所に手すりを設置し、洗面台や台所も低く設け、蛇口もセンサー型とひねる型の二種類があり、入居者一人ひとりの身体機能に合わせて活用できるよう工夫している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	時計や日めくりカレンダー等を各箇所に置き、トイレ等に張り紙をして、入居者一人ひとりが分かるようにしている。弱視の方用に、電気のスイッチや蛇口等に見やすい目印のテープを張り、現有機能を活かせる工夫を行っている。又、その都度、混乱や失敗を防ぐ為の分かりやすい声かけも行っている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花壇や菜園を作り、入居者の方の活動に活かせるよう工夫している。又、ベンチ等も設置し、気軽に外でおやつを召し上がって頂きながらの茶話会も行っている。		

グループホーム 可也 桜の里

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

## グループホーム 可也 桜の里

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設ではなく、家庭と思えるような雰囲気づくりに努めている。又、毎日、全入居者の笑顔を引き出せるよう、コミュニケーションや活動等を大切に、入居者一人ひとりに合わせたサービスの提供を職員一丸となり行っている。